

作者プロフィール

柚木 文夫氏 千葉県隊友会会員 習志野支部長 桧町陸幕 平成 2 年退官 1958 年防衛大学卒
元防大山岳部監督 現自衛隊山岳連盟会長

奥多摩 大岳山－冬晴れの雪山歩き－

大岳山(浅間尾根から)



1 月半ばの冬晴れの日、奥多摩・大岳山（1267 ㍎）に出かけた。御嶽駅からバス、ケーブルと乗り継ぎ 9 時半、ケーブル山頂駅到着。早速御嶽神社に参拝して登山の無事を祈る。途中、夏は人混みで溢れる参道に人影もなく、コンクリートの路面もテロンテロンに凍り、恐る恐るの歩行であった。

御嶽神社



神社境内のベンチでしっかり冬山支度を整え 10 時出発。3

～4 ㍎雪の積もった山道の方がかえって滑る心配もなく安心である。途中奥ノ院回り、ロックガーデン回りの道を左右に分けるが、今日の長丁場を考え、色気を出さず直路、大岳山への一般道を急ぐ。御岳沢のジグザグ登りを詰め、11 時高岩山の稜線に出た後は、右に尾根筋を辿る。所々に鎖や鉄梯子のついた岩場があり、氷結した足場に注意しながら慎重に通過する。11 時 40 分、半ば雪に埋もれた大岳山荘前を通過、後は最後の急な登りを一頑張りして 12 時 5 分、大岳山頂に着いた。

山頂から南に開けた展望が素晴

らしい。雪に輝く富士山、丹沢、御坂山塊、大菩薩の山々が指呼の間に並ぶ。小広い山頂のあちこちに先客も多い。風も無く日差しが暖かい。小生も雪の上にマットを拡げ、お湯を沸かし、ゆっくり景色を眺め

ながらの昼食休憩をとった。

下山は、奥多摩駅に向かい鋸尾根を下った。12 時 40 分山頂発。最初は所々に鎖のある急な岩場を慎重に下る。後は見通しの効かない杉林の中の長い長い尾根道下り。しかし尾根の最後辺りになって突如出現した、小規模ながら連続する険しい岩稜の登り降りには驚かされた。これが鋸尾根の名前の所以かと妙に納得。とはいえ、そこここに鉄梯子や鎖がしっかり設けられており安心ではある。

そして最後は、気の遠くなる程長い愛宕神社の石段(180 段とか)を下り、奥多摩駅到着は午後 4 時となった。電車を待つ間、駅前のソバ屋の熱カンにしばれた。

大岳山頂



愛宕神社石段



大岳山頂からの富士山・三頭山

